

舞台

暗き淵より這い出し
目をしばたたいて
かき分けた土くれの湿り気が陽光に向け
昇天するその匂い

祈りもない
謳歌する喜びは
声高に・・・
徒に声高に

陽光の明るさが地面にはね返り
瞑想を
衆人の目の中へと引きずり出し
曝しものにする

森は、あるいは枝を打ち落とされ
あるいは伐き払われ
陰なる苔みは照らし出され
すごすごと這い出る

「全ては明らかにされねばならぬ」と
不安に満ちた進取気鋭の精神が
地面からばらまく
浸透性の毒液に追い出され

這い出したそこは
ああ、哀れなるかな
瀕死の芸術に郷愁の拍手をおくる者共の
集会場らしい

私は何を求められはしなかったが、観衆は
私が頭を掻けばどよめき
腕を組めば息を殺し
手を挙げればため息をつく有様

馬鹿らしいとは思ったものの
確かに図に乗ったところもあるにはあった

しかし試してみたくもなるではないか
これだけ当たりを取れば

祈りもない
追い立てられるような満足がのたうちまわり
私は次第に呑み込まれてゆくのを感じた
目もくらむばかりの没落の謳歌に

(1989.2.12)